

SQL*Plus for Windows

スタート・ガイド

リリース 8.1.7

2001 年 1 月

部品番号 : J02301-01

ORACLE®

SQL*Plus for Windows スタート・ガイド リリース 8.1.7

部品番号 : J02301-01

原本名 : SQL*Plus Getting Started, Release 8.1.7 for Windows

原本部品番号 : A82954-01

原本著者 : Simon Watt

原本協力者 : Alison Holloway, Christopher Jones, Andrei Souleimanian

Copyright © 1996, 2000, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

はじめに	iii
1 SQL*Plus の紹介	
概要	1-2
基本概念	1-2
2 SQL*Plus のヘルプとデモ表のインストール	
SQL*Plus のインストール	2-2
SQL*Plus オンライン・ヘルプのインストール	2-2
前提条件	2-2
SQL*Plus ヘルプのインストール	2-3
SQL*Plus ヘルプのアクセス	2-3
デモ表のアクセス	2-4
3 SQL*Plus の使用方法	
コマンドライン・インタフェースの使用方法	3-2
コマンドラインのフォントおよびフォント・サイズの変更	3-3
グラフィカル・ユーザー・インタフェースの使用方法	3-4
SQL*Plus アプリケーション・ウィンドウの使用方法	3-6
マウス・ボタンを使用してテキストをコマンド・プロンプトにコピーする方法	3-6
コマンド・キーの使用方法	3-6
SQL*Plus メニューの使用方法	3-7
「環境」ダイアログでのオプションと値の設定	3-11
特殊文字の使用方法	3-13

SQL*Plus の終了	3-13
--------------------	------

4 オペレーティング・システム固有のリファレンス

自動ログイン	4-2
TIMING コマンド	4-2
エラー・メッセージの解釈	4-2
SQL*Plus 環境の設定	4-3
ファイルへの問合せ結果の格納	4-3
@、@@ および START コマンド	4-3
HOST コマンド	4-4
SET NEWPAGE コマンド	4-4
PRODUCT_USER_PROFILE 表	4-4

A オペレーティング・システム・パラメータのカスタマイズ

レジストリの使用方法	A-2
SQLPATH パラメータの説明	A-2
SQLPLUS 環境変数	A-3

索引

はじめに

『SQL*Plus for Windows スタート・ガイド』では、Microsoft Windows 2000、Windows NT 4.0、Windows 98 および Windows 95 オペレーティング・システムに固有の SQL*Plus 製品について説明します。

注意： このドキュメントでは、SQL*Plus for Windows 製品を SQL*Plus と呼びます。

次の項目について説明します。

- [前提条件](#)
- [対象読者](#)
- [このドキュメントの構成](#)
- [関連資料](#)
- [オンライン・ヘルプの参照](#)
- [ドキュメントおよびコードの表記規則](#)

前提条件

このドキュメントは、読者が次のことを十分理解していることを前提にしています。

- SQL*Plus のコマンドと一般的な機能。このドキュメントを使用する前に、共通の SQL*Plus ドキュメント・セットを参照してください。v ページの「[関連資料](#)」を参照してください。
- ファイルの削除やコピーなどのコマンド、検索パス、サブディレクトリおよびパス名の概念。
- Microsoft Windows 2000、Windows NT または Windows 95/98 オペレーティング・システムの基礎。

対象読者

このドキュメントは、Windows 2000、Windows NT または Windows 95/98 のオペレーティング・システム環境で SQL*Plus を使用するすべてのユーザーを対象としています。

このドキュメントの構成

このドキュメントは、次のように構成されています。

第 1 章「SQL*Plus の紹介」

第 2 章「SQL*Plus のヘルプとデモ表のインストール」

第 3 章「SQL*Plus の使用方法」

第 4 章「オペレーティング・システム固有のリファレンス」

付録 A「オペレーティング・システム・パラメータのカスタマイズ」

関連資料

『SQL*Plus for Windows スタート・ガイド』では、Windows ベースのプラットフォームにおける SQL*Plus に固有の情報を説明します。SQL*Plus のクロスプラットフォーム・サポート、機能およびコマンドの詳細は、製品 CD-ROM の SQL*Plus 共通ドキュメント・セットを参照してください。Oracle Enterprise Edition for Windows 製品のドキュメント・セットに加えて、次の SQL*Plus ドキュメントがオンラインで参照できます。

- 『SQL*Plus 8.1.7 Release Bulletin』(SQL*Plus ドキュメントに含まれていない、後で判明した情報を含めた Readme ファイル)
- 『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』
- 『SQL*Plus クイック・リファレンス』

注意： SQL*Plus をインストールする前に、CD-ROM にある SQL*Plus の共通のドキュメント、および最新情報が入ったリリース・ノートと Readme ファイルを参照してください。

オンライン・ヘルプの参照

SQL*Plus の使用方法のオンライン・ヘルプは、セッション中の SQL*Plus コマンドラインから利用できます。ただし、管理者がまず SQL*Plus ヘルプ表を作成して移入しておく必要があります。SQL*Plus ヘルプのインストールについては、[第 2 章の「SQL*Plus オンライン・ヘルプのインストール」](#)を参照してください。

ドキュメントおよびコードの表記規則

このドキュメントで使用される表記規則は、次のとおりです。

規則	例	意味
大文字	ALTER DATABASE	コマンド名、SQL 予約語、キーワードを示します。ディレクトリ名やファイル名も示します。
イタリック	変数を示すために使用 <i>filename</i>	入力が必要な値を示します。たとえば、コマンドで <i>filename</i> を入力するように要求された場合は、ファイルの実際の名前を入力する必要があります。
Oracle データベース		Oracle8i のデータベース・コンポーネント。
C:¥>	この例は、Optimal Flexible Architecture (OFA) 準拠データベースにおける最初の Oracle ホームのデフォルトを示しています。 C:¥>ORACLE¥ORA81	現行のハード・ディスク・ドライブの Windows コマンド・プロンプトを示します。プロンプトは異なる場合もあり、使用中のサブディレクトリを示すこともあります。このドキュメントでは、Windows コマンド・プロンプトと呼びます。
ディレクトリ名の前の円記号 (¥)	¥ORADATA	ディレクトリが、ルート・ディレクトリのサブディレクトリであることを示します。

規則	例	意味
ORACLE_HOME およ び ORACLE_BASE	ORACLE_HOME¥ADMIN ディレクトリに移動します。	<p>以前のリリースでは、SQL*Plus をインストールした場合、すべてのサブディレクトリが最上位の ORACLE_HOME ディレクトリの下に配置されましたが、これはデフォルトで次のディレクトリでした。</p> <ul style="list-style-type: none">■ Windows NT の場合、C:¥ORANT■ Windows 95 の場合、C:¥ORAWIN95■ Windows 98 の場合、C:¥ORAWIN98 <p>ユーザーが独自の Oracle ホームを設定することもできました。</p> <p>このリリースは、Optimal Flexible Architecture (OFA) に準拠しているため、すべてのサブディレクトリが最上位の ORACLE_HOME ディレクトリの下にあるわけではありません。新しい最上位ディレクトリの名前は ORACLE_BASE で、このディレクトリのデフォルトは C:¥ORACLE です。</p> <p>複数の Oracle ホームと Optimal Flexible Architecture (OFA) の詳細は、『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』を参照してください。</p>
HOME_NAME	OracleHOME_ NAME listener	<p>Oracle ホーム名を示します。ホーム名は、英数字 16 文字までです。ホーム名で利用できる特殊文字は、アンダースコアのみです。</p>

規則	例	意味
記号	ピリオド . カンマ , ハイフン - セミコロロン ; コロン : 等号 = 円記号 ¥ 一重引用符 ' 二重引用符 " 丸カッコ ()	コマンドの中の大カッコと垂直バー以外の記号は、表記されているとおりに入力する必要があります。
キー + 数値	[Alt]+128	[Alt] キーを押しながら 128 を入力します。これは通常、SQL*Plus コマンド・プロンプトで拡張 ASCII 文字と同等の 10 進数を入力するために使用されます。

SQL*Plus の紹介

この章では、SQL*Plus を使用し始めるときに役に立つ、初歩的な情報を提供します。
次の項目について説明します。

- [概要](#)
- [基本概念](#)

概要

SQL*Plus ツールは、SQL（Structured Query Language）およびその拡張されたプロシージャ型言語である PL/SQL とともに使用できます。これらのデータベース言語を使用することにより、Oracle データベースに対しデータを格納および検索できます。PL/SQL を使用すると、プロシージャ型論理を介していくつかの SQL コマンドを連結できます。

SQL*Plus を使用することで、SQL コマンドおよび PL/SQL ブロックを操作でき、またその他の多くの作業を実行できます。SQL*Plus では、次の操作を行うことができます。

- SQL コマンドと PL/SQL ブロックの入力、編集、保存、取出し、実行
- レポートのフォーム内での問合せ結果のフォーマット、計算、保存、印刷
- 任意の表の列定義のリスト
- データベース間でのデータのアクセス、コピー
- エンド・ユーザーへのメッセージの送信とその応答受信
- データベース管理の実行

SQL*Plus は、コマンドライン・インタフェースとグラフィカル・ユーザー・インタフェース（GUI）の両方を提供します。詳細は、[第 3 章「SQL*Plus の使用方法」](#)を参照してください。

注意： リリース 8.1.7 には Server Manager が付属していますが、Server Manager は将来のリリースには付属しなくなるので、オラクル社では SQL*Plus に移行することをお薦めします。

基本概念

次の定義は、SQL*Plus の基本的な概念を説明します。

概念	定義
コマンド	特定の作業を実行するために、オペレーティング・システムまたは SQL*Plus や Oracle などのソフトウェアに与える指示
SQL コマンド	SQL 文を実行するコマンド
SQL*Plus コマンド	SQL*Plus 文を実行するコマンド
ブロック	PL/SQL で、プロシージャ型論理を介して互いに関係付けられる SQL コマンドと PL/SQL コマンドのグループ
表	Oracle 内の記憶の基本単位
問合せ	1 つ以上の表から情報を検索する読取り専用 SQL SELECT コマンド

概念	定義
問合せ結果	問合せによって検索されるデータ
レポート	ユーザーが SQL*Plus コマンドによってフォーマットした問合せ結果
SQL バッファ	SQL*Plus に入力した最新の SQL コマンドまたは PL/SQL ブロックを格納するバッファ
画面バッファ	SQL*Plus アプリケーション・ウィンドウ内のデータを格納するバッファ

SQL*Plus に関するこの他の概念の定義は、『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の「用語集」を参照してください。

SQL*Plus のヘルプとデモ表のインストール

この章では、SQL*Plus のコンポーネントをインストールするときに役に立つ情報を提供します。

次の項目について説明します。

- [SQL*Plus のインストール](#)
- [SQL*Plus オンライン・ヘルプのインストール](#)
- [デモ表のアクセス](#)

SQL*Plus のインストール

CD-ROM 版の製品に付随のドキュメントには、SQL*Plus に関する次の情報が記載されています。

- システム要件
- インストールの指示

注意： SQL*Plus をインストールする前に、CD-ROM にある SQL*Plus の共通のドキュメント、および最新情報が入ったリリース・ノートと Readme ファイルを参照してください。

SQL*Plus オンライン・ヘルプのインストール

オンライン・ヘルプは、SQL*Plus を使用している間、グラフィカル・ユーザー・インタフェースとコマンドライン・インタフェースのどちらからでも使用可能です。データベース管理者が SQL*Plus ヘルプ表を作成し、SQL*Plus ヘルプ・データを移入します。

前提条件

SQL*Plus ヘルプをインストールする前に、次のことを確認します。

- SQL*Plus がインストールされていること。インストールされていなければ、ヘルプ表の作成およびロードはできません。
- SYSTEM ユーザーのデフォルト表領域が、ヘルプ・システムに対応できる大きさであること。少なくとも 128K の空き領域が必要です。
- SQL*Plus ヘルプのスクリプト・ファイルは、次の位置にあります。

`%ORACLE_HOME%\SQLPLUS\ADMIN\HELP%`

ヘルプのスクリプト・ファイルは、次のとおりです。

- HELPBLD.SQL: 削除して新しいヘルプ表を作成します。
- HELPUS.SQL: ヘルプ表にヘルプ・データを移入します。
- HELPDROP.SQL: 既存の SQL*Plus ヘルプ表を削除します。
- Windows のコマンド・ファイル HELPINS.BAT は、次の位置にあります。

`%ORACLE_HOME%\BIN%`

SQL*Plus ヘルプのインストール

SQL*Plus ヘルプをインストールするには、次を実行します。

インストール中に、Database Configuration Assistant から「SQL*Plus ヘルプ」を選択します。

または、

1. SYSTEM ユーザーのログイン情報を保持するための環境変数 SYSTEM_PASS を設定します。

```
SET SYSTEM_PASS=SYSTEM/PASSWORD
```

PASSWORD は SYSTEM ユーザー用に定義したパスワードです。SYSTEM ユーザーのデフォルトのパスワードは MANAGER です。

HELPINS ユーティリティによってこのログインが SYSTEM_PASS から読み込まれ、正常に実行されます。

2. コマンドライン・プロンプトからバッチ・ファイル HELPINS.BAT を実行します。

```
C:¥> %ORACLE_HOME%¥BIN¥HELPINS US
```

または、

1. SQL*Plus を、SYSTEM ユーザーとして実行します。

```
C:¥> SQLPLUS SYSTEM/PASSWORD
```

PASSWORD は SYSTEM ユーザー用に定義したパスワードです。

2. SQL スクリプト HELPBLD.SQL を SQL*Plus から実行します。

```
SQL> @%ORACLE_HOME%¥SQLPLUS¥ADMIN¥HELP¥HELPBLD.SQL
```

SQL*Plus ヘルプのアクセス

SQL*Plus ヘルプにアクセスするには、SQL*Plus に次のコマンドの 1 つを入力します。

```
SQL> HELP
```

または、

```
SQL> HELP INDEX
```

または、

```
SQL> HELP TOPICS
```

必要なヘルプのトピックがわかっている場合は、次を入力します。

```
SQL> HELP topic
```

topic は SQL*Plus ヘルプのトピックです。たとえば、COLUMN コマンドのヘルプが必要であれば、次のように入力します。

```
SQL> HELP COLUMN
```

ヘルプが利用できないというメッセージを受け取る場合は、SQL*Plus ヘルプが SYSTEM スキーマに正しくインストールされているかどうかをチェックします。

HELP コマンドの詳細は、『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の第 8 章「コマンド・リファレンス」を参照してください。

デモ表のアクセス

デモ表をロードするには、その作業を完了することができるユーザー・アカウントで SQL*Plus を起動します。『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』では、パスワード TIGER を持つユーザー名 SCOTT が使用されていますが、同じ権限を持つアカウントであれば、どのようなアカウントでもかまいません。

SQL*Plus プロンプトに次のコマンドを入力します。

```
SQL> @%ORACLE_HOME%\SQLPLUS\DEMO\DEMOBLD.SQL
```

この例の作業を終了したとき、次のコマンドを入力してデータベースからデモ表を削除できます。

```
SQL> @%ORACLE_HOME%\SQLPLUS\DEMO\DEMODROP.SQL
```

SQL*Plus の使用方法

この章では、コマンドライン・インタフェースとグラフィカル・ユーザー・インタフェースのそれぞれから SQL*Plus を起動して使用方法、およびグラフィカル・ユーザー・インタフェースのメニュー・オプションについて説明します。

次の項目について説明します。

- [コマンドライン・インタフェースの使用方法](#)
- [グラフィカル・ユーザー・インタフェースの使用方法](#)
- [SQL*Plus の終了](#)

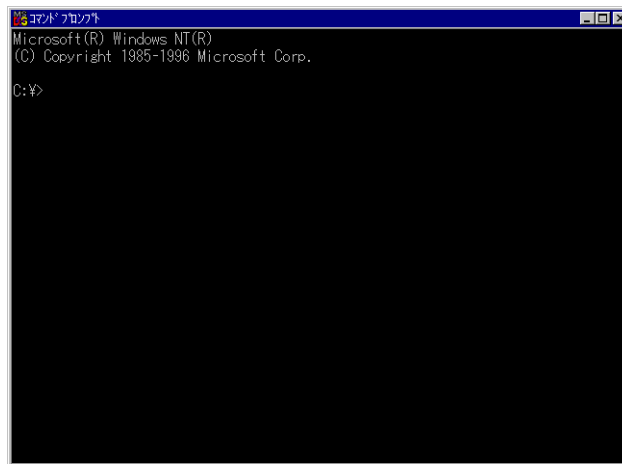
コマンドライン・インタフェースの使用法

SQL*Plus コマンドライン・インタフェースは、すべてのオペレーティング・システム上で標準に備わっています。

Oracle データベースに接続する場合は、ネットワーク用ソフトウェアである Net8 がインストールされ、正常に動作していることを確認します。詳細は、『Net8 管理者ガイド』および『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の付録「Net8 の構成」を参照してください。

コマンドライン・インタフェースから SQL*Plus を起動する手順は、次のとおりです。

1. 「スタート」メニューの「プログラム」から「MS-DOS プロンプト」または「コマンドプロンプト」を選択します。「MS-DOS プロンプト」ウィンドウまたは「コマンドプロンプト」ウィンドウが現れます。



2. 次を入力して SQL*Plus を起動します。

```
C:\> SQLPLUS
```

オプションとして、スラッシュ (/) で区切ったログイン・ユーザー名とパスワード、および接続するリモート・データベース名を含めることができます。たとえば、次のとおりです。

```
C:\> SQLPLUS username/password@connect_identifier
```

含めない場合は、ユーザー名とパスワードの入力を求めるプロンプトが出されます。

Windows における引数の解釈

Windows のコマンド・ファイルでの引数解釈の規則は次のとおりです。

- 引数は空白で区切られます。
- 二重引用符で囲まれた文字列（たとえば “this string”）は、1 つの引数として解釈されます。
- 円記号（¥）が前に付いている二重引用符は、リテラルの二重引用符として解釈されます。

SQL*Plus コマンドライン引数の詳細は、『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

コマンドラインのフォントおよびフォント・サイズの変更

Windows の「“ コマンド プロンプト ” のプロパティ」ダイアログ・ボックスを使用して、SQL*Plus コマンドライン・インタフェースで使用されるフォントおよびフォント・サイズを設定できます。

コマンドライン・インタフェースのフォントおよびフォント・サイズを変更するには

1. コマンドライン・インタフェースのタイトル・バーをマウスの右ボタンでクリックします。
2. 「フォント」タブをクリックします。
3. 「プロパティ」をクリックします。「ウィンドウのプレビュー」ボックスに、フォントおよびフォント・サイズを選択に基づいて、モニター上での現在のウィンドウの相対サイズが表示されます。「選択したフォント:」ボックスに、現在のフォントのサンプルが表示されます。
4. 「サイズ」ボックスで、使用するフォント・サイズを選択します。ラスター・フォント・サイズは、ピクセル単位の幅×高さで示されます。TrueType フォント・サイズは、ピクセル単位の幅で示されます。
5. 「フォント」ボックスで、使用するフォントを選択します。
6. ボールド・バージョンのフォントを使用するには、「ボールド フォント」チェック・ボックスをオンにします。

Windows コマンド・プロンプトのプロパティの変更の詳細は、Windows のヘルプを参照するか、「“ コマンド プロンプト ” のプロパティ」ダイアログ・ボックスで「ヘルプ」をクリックします。

特殊文字の使用法

フォントにユーロ記号などの特定の文字が含まれているかどうかをチェックするには、その文字に相当する 10 進数を SQL*Plus コマンドライン・インタフェースに入力します。たとえば、ユーロ記号と同等の 10 進数は 128 なので、この記号を表示するには **[Alt]+0128** と入力します。正しく表示された場合は、選択したフォントにユーロ記号が含まれます。表示されない場合は別のフォントを試す必要があります。

Windows の「文字コード表」ユーティリティを使用して、フォントで使用可能な文字を表示できます。文字コード表では、拡張 ASCII 文字と同等の 10 進数も表示されます。「文字コード表」ユーティリティにアクセスするには、「**スタート**」→「**プログラム**」→「**アクセサリ**」を選択（Windows 98/2000 の場合は、さらに「システム ツール」を選択）し、「**文字コード表**」をクリックします。

グラフィカル・ユーザー・インタフェースの使用法

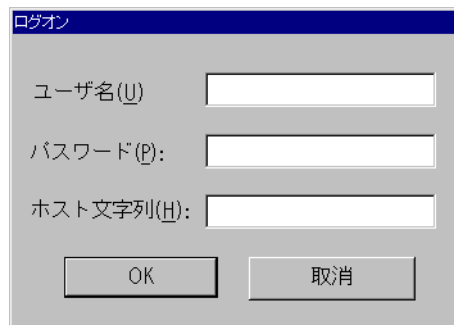
コマンドライン・インタフェースがすべてのオペレーティング・システム・プラットフォームで SQL*Plus の標準の機能であるのに対し、グラフィカル・ユーザー・インタフェースは Windows で動作する SQL*Plus の機能です。

Oracle データベースに接続する場合は、ネットワーク用ソフトウェアである Net8 がインストールされ、正常に動作していることを確認します。詳細は、『Net8 管理者ガイド』および『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』の付録「Net8 の構成」を参照してください。

SQL*Plus グラフィカル・ユーザー・インタフェースを起動する手順は、次のとおりです。

1. 「**スタート**」メニューから、「**プログラム**」を選択します。次に、「**Oracle - ORACLE_HOME**」→「**Application Development**」→「**SQL Plus**」を選択します。

「SQL*Plus」ウィンドウが現れ、「ログオン」ダイアログが表示されます。



有効なユーザー名とパスワードを入力します。リモート Oracle データベースに接続する場合は、「ホスト文字列」フィールドに Net8 接続識別子を入力します。接続識別子の構成と使用方法の詳細は、『Net8 管理者ガイド』を参照してください。

2. 「OK」をクリックします。

または、

1. 「スタート」メニューから、「MS-DOS プロンプト」または「コマンド プロンプト」を選択します。「MS-DOS プロンプト」ウィンドウまたは「コマンド プロンプト」ウィンドウが現れます。
2. 次を入力します。

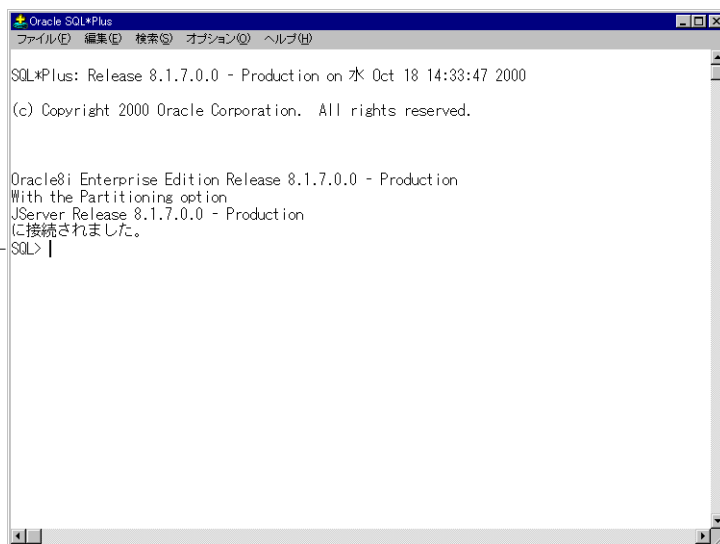
```
C:\> SQLPLUSW
```

SQL*Plus グラフィカル・ユーザー・インタフェースが起動します。オプションとして、スラッシュ (/) で区切ったログイン・ユーザー名とパスワード、および接続するリモート・データベース名を含めることができます。たとえば、次のとおりです。

```
C:\> SQLPLUSW username/password@connect_identifier
```

含めない場合は、前述のように「ログイン」ダイアログに必要な情報を入力します。Oracle SQL*Plus アプリケーション・ウィンドウが現れます。

SQL*Plus
コマンド・
プロンプト



SQL*Plus アプリケーション・ウィンドウの使用法

SQL*Plus では、アプリケーション・ウィンドウに SQL コマンド・プロンプトが表示されます。

SQL コマンドおよび SQL*Plus コマンドを入力するには、SQL*Plus プロンプトにそれぞれのコマンドを入力し、[Enter] キーを押します。

マウス・ボタンを使用してテキストをコマンド・プロンプトにコピーする方法

マウス・ボタンを使用して、SQL*Plus ですでに入力されているテキストを SQL*Plus プロンプトにコピーできます。

テキストをコピーするには、マウスの左ボタンをクリックしてテキストを選択し、ドラッグします。マウスの左ボタンを押したまま、右ボタンをクリックします。SQL*Plus は、選択したテキストを SQL*Plus プロンプトにコピーします。

コマンド・キーの使用法

SQL*Plus では、次のコマンド・キーに特殊機能が割り当てられています。

キー	機能
[Home]	画面バッファの一番上への移動
[End]	画面バッファの一番下への移動
[Page Up]	前の画面ページへの移動
[Page Down]	次の画面ページへの移動
[Ctrl]+[Page Up]	現行の画面ページの左にページを表示
[Ctrl]+[Page Down]	現行の画面ページの右にページを表示
[Alt]+[F3]	検索
[F3]	次を検索
[Ctrl]+C	SQL*Plus で実行中の操作を取消し
[Ctrl]+C	テキストをコピー（SQL*Plus で操作が実行中でないとき）
[Ctrl]+V	テキストを貼付け
[Shift]+[Del]	画面と画面バッファをクリア

SQL*Plus メニューの使用法

この項では、SQL*Plus グラフィカル・ユーザー・インタフェース（GUI）のメニューを説明します。カッコ内は、「ファイル」メニューのコマンドのキーボード・ショートカットを示します。一番右の列は、同等のコマンドライン・インタフェース・コマンドがある場合にそれを示しています。

「ファイル」メニュー

「ファイル」メニューには、次のオプションがあります。

オプション	「ファイル」メニューのオプションの説明	コマンドライン
開く	「開く」オプションは、保存されているコマンド・ファイルを取り出します。 ファイル拡張子を指定しなければ、SQL*Plus によって拡張子 .SQL の付いたコマンド・ファイルが検索されます。	GET <i>filename</i>
上書き保存	<p>「上書き保存」オプションには、「作成」、「置換」および「追加」の3つがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「作成」は、SQL*Plus バッファの内容をコマンド・ファイルに保存します。デフォルトでは、SQL*Plus はコマンド・ファイルに拡張子 .SQL を割り当てます。「ファイル名」テキスト・ボックスで別の拡張子を指定できます。 ■ 「置換」は、既存のファイルの内容を SQL*Plus バッファの内容に置き換えます。ファイルが存在しない場合は、SQL*Plus がファイルを作成します。 ■ 「追加」は、指定したファイルの終わりに SQL*Plus バッファの内容を追加します。 <p>コマンド・ファイルの保存後、次の操作を行うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「ファイル」メニューの「開く」オプションを使用したファイルの取出し ■ 「編集」メニューの「エディタ」オプションを使用したファイルの編集 ■ SQL*Plus コマンド・プロンプトからの、START または RUN コマンドによるファイルの実行 	SAVE SAVE <i>filename</i> CREATE SAVE <i>filename</i> REPLACE SAVE <i>filename</i> APPEND
別名保存	<p>「別名保存」オプションは、SQL*Plus バッファの内容をコマンド・ファイルに保存します。</p> <p>デフォルトでは、SQL*Plus はコマンド・ファイルに拡張子 .SQL を割り当てます。「ファイル名」テキスト・ボックスで別の拡張子を指定できます。</p>	SAVE <i>filename</i>
スプール	「スプール」オプションには、「スプール・ファイル」と「スプール・オフ」の2つがあります。SQL*Plus for Windows では、SPOOL OUT 句はサポートされていません。	

オプション	「ファイル」メニューのオプションの説明	コマンドライン
	<ul style="list-style-type: none">「スプール・ファイル」は問合せ結果をファイルに保存します。デフォルトでは SQL*Plus はスプール・ファイルに拡張子 .LST を割り当てます。「ファイル名」テキスト・ボックスで別の拡張子を指定できます。結果は「編集」メニューの「エディタ」オプションを使用して編集でき、Windows のテキスト・エディタからファイルを印刷できます。「スプール・オフ」は、スプール操作を中止します。	SPOOL <i>filename</i> SPOOL OFF
実行	「実行」オプションは、現在 SQL バッファに保存されている SQL コマンドまたは PL/SQL ブロックを表示し、実行します。	RUN
取消 ([Ctrl]+C)	「取消」オプションは、実行中の操作を取り消します。 「取消し」キーボード・ショートカットは、SQL*Plus セッションで SQL*Plus 操作が実行中である場合にのみ利用できます。SQL*Plus 操作が実行中でなければ、[Ctrl]+C 操作によって選択されたテキストがコピーされます。	[Ctrl]+C
終了	「終了」オプションは、保留中のデータベースの変更をすべてコミットし、SQL*Plus アプリケーション・ウィンドウを閉じます。	EXIT

編集メニュー

「編集」メニューには、次のオプションがあります。

オプション	「編集」メニューのオプションの説明	コマンドライン
コピー ([Ctrl]+C)	「コピー」オプションは、選択されたテキストをクリップボードにコピーします。 テキストをクリップボードにコピーした後、Microsoft Excel や Microsoft Word のような、別の Windows アプリケーションに貼り付けることができます。 「コピー」キーボード・ショートカットは、SQL*Plus セッションで SQL*Plus 操作が実行中でない場合にのみ利用できます。SQL*Plus 操作が実行中であれば、[Ctrl]+C によって実行中の操作が取り消されます。	該当なし
貼付け ([Ctrl]+V)	「貼付け」オプションは、クリップボードの内容を SQL*Plus コマンドラインに貼り付けます。 注意： 1 回の貼付け操作でクリップボードから SQL*Plus コマンドラインに貼り付けることができる文字は最大で 3625 文字です。	該当なし
クリア ([Shift]+[Del])	「クリア」オプションは、SQL*Plus アプリケーション・ウィンドウの画面バッファと画面をクリアします。	CLEAR SCREEN
エディタ	「エディタ」オプションには、「エディタ起動」と「エディタ定義」の 2 つがあります。	

オプション	「編集」メニューのオプションの説明	コマンドライン
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「エディタ起動」コマンドは、SQL*Plus バッファの内容をエディタにロードします。デフォルトでは、SQL*Plus はファイルを AFIEDT.BUF に保存します。エディタで別のファイル名を指定することもできます。 ■ 「エディタ定義」は、起動されるエディタを定義します。 	EDIT DEFINE_EDITOR = editor name

「検索」メニュー

「検索」メニューには、次のオプションがあります。

オプション	「検索」メニューのオプションの説明	コマンドライン
検索 ([Alt]+[F3])	<p>「検索」オプションは、SQL*Plus アプリケーション・ウィンドウ内で文字、単語、文字グループ、単語グループを検索します。検索は、表示された画面の一番上から開始されます。</p> <p>注意： 表示された画面の最後まで検索しても、画面バッファの一番上から検索を自動的に再開しません。</p>	該当なし
次検索 ([F3])	「次検索」オプションは、指定したテキストが次に存在する箇所を検索します。	該当なし

「オプション」メニュー

「オプション」メニューには、次のオプションがあります。

オプション	「オプション」メニューのオプションの説明	コマンドライン
環境	<p>「環境」オプションを使用すると、システム変数を設定して現在のセッションの SQL*Plus 環境を変更できます。このダイアログには、「オプション設定」、「値」および「画面バッファ」の3つの領域があります。</p> <p>注意： これらのコントロールが互いにどのように影響し合うかの例は、3-11 ページの「「環境」ダイアログでのオプションと値の設定」を参照してください。</p>	

オプション	「オプション」メニューのオプションの説明	コマンドライン
	オプション設定 この領域には、現行セッションの SQL*Plus 環境を設定するための、次のような変数のリストがあります。 <ul style="list-style-type: none">■ NUMBER データの表示幅の設定■ LONG データの表示幅の設定■ 列ヘッダーの印刷の許可および禁止■ 1 ページあたりの行数の設定 SET コマンドのそれぞれのシステム変数の説明は、『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の「コマンド・リファレンス」の章を参照してください。	SET variable value
	値 「値」領域には、「デフォルト」、「ユーザー定義」、「オン」および「オフ」の 4 つのオプションがあります。 注意： 「ユーザー定義」が選択されているとき、「オン」、「オフ」の 2 つのボタンとテキスト・フィールドのそれぞれを、ユーザーが選択できる場合と選択できない場合があります。これらのフィールドを使用できるかどうかは、「オプション設定」領域でどの項目が選択されているかによって決まります。	SET variable value
	画面バッファ この領域には、「バッファ幅」および「バッファ長」の 2 つのテキスト・ボックスがあります。 <ul style="list-style-type: none">■ 「バッファ幅」テキスト・ボックスでは、SQL*Plus が 1 行に表示する文字の数を設定します。出力データの長さより小さい数を入力すると、SQL*Plus は指定されたバッファ幅に一致するように、データの一部を切り捨てます。「バッファ幅」パラメータのデフォルト値は 100 文字です。1 行には 80 ～ 1000 文字を指定できます。■ 「バッファ長」テキスト・ボックスでは、SQL*Plus が画面上で表示する行数を設定します。SQL*Plus が指定より多くのデータ行を表示している場合、データの残りの行は画面バッファの先頭に「折り返し (WRAP)」されます。「バッファ長」パラメータのデフォルト値は 1000 行です。1 つの画面上に 100 行～ 2000 行まで指定できます。 注意： 「画面バッファ」オプションを変更すると、SQL*Plus はダイアログを表示し、画面バッファのサイズを小さくする場合は画面上に一部のデータが表示されなくなることを警告します。そのまま続ける場合は「OK」をクリックします。 SET MARKUP を使用して HTML 表に出力を送信する場合は、バッファ長変数に指定した行数で、HTML 表の行数が指定されます。各 HTML 表の行には、複数のテキスト行が含まれる場合があります。	SET variable value

「ヘルプ」メニュー

「ヘルプ」メニューには、次のオプションがあります。

オプション	「ヘルプ」メニューのオプションの説明	コマンドライン
SQL*Plus のバージョン情報	SQL*Plus のバージョン番号と著作権についての情報を表示します。 SQL*Plus Help は、SQL*Plus プロンプトからアクセスします。第 2 章の「SQL*Plus ヘルプのアクセス」を参照してください。	該当なし

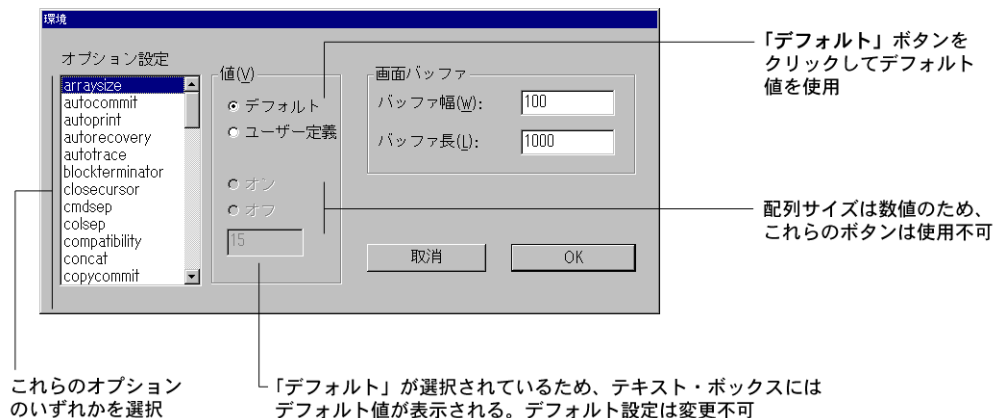
「環境」ダイアログでのオプションと値の設定

現行セッションの環境 SQL 文を作成するために使用する「環境」ダイアログを表示するには、「オプション」メニューから「環境」を選択します。

まず、「オプション設定」リストから項目を選択します。デフォルトの設定を使用することも、あるいはダイアログ・コントロールを使用して設定をカスタマイズすることもできます。使用可能なコントロールは、選択するオプションによって異なります。オプションと値に複数の変更を加えることができます。テキスト・ボックスが使用可能なときには、適切なテキストまたは数値を入力できます。「OK」をクリックして、設定をコミットします。

例 3-1

配列サイズはデフォルトの 15 に設定されています。配列サイズは数値であるため、「オン」と「オフ」の両ボタンは使用できません。



配列サイズを変更するには、「ユーザー定義」をクリックして、テキスト・ボックスに数値を入力します。



例 3-2

echo のデフォルト設定はオフです。設定を変更するには、「ユーザー定義」をクリックし、次に「オン」をクリックします。echo の設定はオンまたはオフの区別のみであるため、テキスト・ボックスは使用できません。



特殊文字の使用法

フォントにユーロ記号などの特定の文字が含まれているかどうかをチェックするには、文字に相当する 10 進数を SQL*Plus Windows GUI に入力します。たとえば、ユーロ記号と同等の 10 進数は 128 なので、この記号を表示するには **[Alt]+0128** と入力します。正しく表示された場合は、選択したフォントにユーロ記号が含まれます。表示されない場合は別のフォントを試す必要があります。

Windows の「文字コード表」アクセサリを使用して、フォントで使用可能な文字を表示することもできます。文字コード表では、拡張 ASCII 文字と同等の 10 進数も表示されます。「文字コード表」アクセサリにアクセスするには、**「スタート」** → **「プログラム」** → **「アクセサリ」** を選択（Windows 98/2000 の場合は、さらに「システム ツール」を選択）し、「文字コード表」をクリックします。

SQL*Plus の終了

コマンドライン・インタフェースまたは GUI から SQL*Plus を終了するには、SQL*Plus プロンプトに EXIT または QUIT を入力します。

コマンドラインから SQLPLUSW を使用して起動した場合は、コマンドライン・インタフェースまたは GUI を終了したときに Windows のコマンド・プロンプトに戻ります。

GUI から SQL*Plus を終了すると、GUI が閉じて Windows に戻ります。

オペレーティング・システム固有のリファレンス

この章では、『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』で参照されるオペレーティング・システム固有の情報について説明します。

次の項目について説明します。

- [自動ログイン](#)
- [TIMING コマンド](#)
- [エラー・メッセージの解釈](#)
- [SQL*Plus 環境の設定](#)
- [ファイルへの問合せ結果の格納](#)
- [@、@@ および START コマンド](#)
- [HOST コマンド](#)
- [SET NEWPAGE コマンド](#)
- [PRODUCT_USER_PROFILE 表](#)

自動ログイン

同じ Windows コンピュータ上の Oracle データベースに接続する場合は、自動ログインを実行できるように SQL*Plus を設定できます。設定するには、次の手順を実行します。

1. データベースにアクセスする必要がある Windows ユーザー（USERX）ごとに、データベース・アカウント <PREFIX>USERX を作成します。<PREFIX> は、データベース（デフォルトは OPS\$）の初期化パラメータ・ファイルにあるパラメータ OS_AUTHENT_PREFIX です。OS_AUTHENT_PREFIX パラメータの詳細は、『Oracle8i リファレンス・マニュアル』および『Oracle8i Advanced Security 管理者ガイド』を参照してください。
2. Windows に USERX でログオンした後は、ユーザー名 / パスワードのかわりに、/（スラッシュ）を使用して SQL*Plus にログインできます。

オペレーティング・システムにログオンするときに SQL*Plus に自動的にログインできます。この方法の詳細は、『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の第 2 章の「SQL*Plus を起動するためのショートカット」を参照してください。

TIMING コマンド

SQL*Plus TIMING コマンドは、出力を時、分、秒および 1/100 秒単位で表示します。たとえば、02:31:07.55 は、2 時間 31 分 7.55 秒です。

『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の第 2 章の「実行したコマンドのタイミング統計の収集」と、第 8 章の「SET」および「TIMING」の項を参照してください。TIMING コマンドおよび SET TIMING コマンドを使用して経過期間のタイミング・データを記録する方法が説明されています。

エラー・メッセージの解釈

エラー・メッセージの解釈の詳細は、『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の第 2 章の「エラー・メッセージの解釈」およびこのマニュアルを参照してください。文字列 ORA で始まるエラー・コードの説明と処置を調べるには、『Oracle8i エラー・メッセージ』を参照してください。

『Oracle8i エラー・メッセージ』でエラー・コードを見つけれない場合は、『Oracle8i for Windows NT 管理者ガイド』を参照してください。

SQL*Plus 環境の設定

SQL*Plus をインストールすると、LOGIN.SQL は Oracle ホーム・ディレクトリの DBS サブディレクトリにコピーされ、GLOGIN.SQL は Oracle ホーム・ディレクトリの SQLPLUS\ADMIN サブディレクトリにコピーされます。

LOGIN.SQL または GLOGIN.SQL を変更する場合、ANSI エスケープ・シーケンスを追加しないようにしてください。

『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の第 3 章の「SQL*Plus 環境の設定」を参照してください。LOGIN.SQL ファイルと GLOGIN.SQL ファイルの説明があります。

ファイルへの問合せ結果の格納

SPOOL コマンドは、SQL*Plus グラフィカル・ユーザー・インタフェースの「**ファイル**」メニューから使用可能です。詳細は、3-7 ページの「**ファイル** **メニュー**」を参照してください。

SPOOL コマンドをグラフィカル・ユーザー・インタフェースまたはコマンドライン・インタフェースで使用する時、拡張子を指定していないと SQL*Plus によってファイル名に .LST が追加されます。

SQL*Plus は、コマンドラインでの SPOOL OUT 句の使用をサポートしていません。

SPOOL コマンドの詳細は、『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の第 4 章の「ファイルへの結果の格納」および第 8 章の「SPOOL」を参照してください。

@、@@ および START コマンド

SQL*Plus によって、@ コマンド、@@ コマンドまたは START コマンドで指定したファイル名が現行のデフォルト・ディレクトリで検索されます。SQL*Plus がこのファイルを見つけられない場合は、プログラムはパスを検索して、ファイルを見つけます。

レジストリの中の SQLPATH パラメータを変更すると、SQL*Plus が検索するパスを指定できます。SQLPATH パラメータの詳細は、付録 A の「SQLPATH パラメータの説明」を参照してください。

『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の第 8 章の「@ (アット・マーク)」、「@@ (二重アット・マーク)」、「START」の各項を参照してください。@ コマンド、@@ コマンド、START コマンドを使用したときに SQL*Plus がファイルを検索する方法が説明されています。

HOST コマンド

SQL*Plus では、HOST コマンドあるいはドル記号 (\$) を SQL*Plus プロンプトに入力すると、Windows コマンド・プロンプトにアクセスできます。

Windows コマンド・プロンプトから SQL*Plus に戻るには、exit と入力します。

『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の第 8 章の「HOST」を参照してください。HOST コマンドを使用して、SQL*Plus を終了せずにホスト・オペレーティング・システム・コマンドを実行する方法が説明されています。

SET NEWPAGE コマンド

SET NEWPAGE 0 コマンドはページ間で画面をクリアしません。かわりに、GUI では黒いボックスが表示され、コマンドライン・インタフェースでは別の文字が表示されます。

『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の第 8 章の「SET」を参照してください。NEWPAGE システム変数およびその他の多くのシステム変数を設定する方法が説明されています。SET NEWPAGE NONE を使用することをお勧めします。

PRODUCT_USER_PROFILE 表

PRODUCT_USER_PROFILE (PUP) 表によって、SQL GRANT コマンド、REVOKE コマンドおよびユーザー・ロールによって提供されるユーザーレベルのセキュリティを補足する、製品レベルのセキュリティが提供されます。

PUP 表の作成方法

SYSTEM ユーザーで SQL*Plus にログインし、ORACLE_HOME¥SQLPLUS¥ADMIN ディレクトリにある PUPBLD.SQL を実行します。

```
SQL> @%ORACLE_HOME%¥SQLPLUS¥ADMIN¥PUPBLD.SQL
```

または、

1. SYSTEM ユーザーのログイン情報を保持するための環境変数 SYSTEM_PASS を設定します。

```
C:¥> SET SYSTEM_PASS=SYSTEM/PASSWORD
```

PASSWORD は SYSTEM ユーザー用に定義したパスワードです。SYSTEM ユーザーのデフォルトのパスワードは MANAGER です。

PUPBLD.BAT によってこのログインが SYSTEM_PASS から読み込まれ、正常に実行されます。

2. コマンドライン・プロンプトからバッチ・ファイル PUPBLD.BAT を実行します。

```
C:¥> %ORACLE_HOME%¥BIN¥PUPBLD.BAT
```

SQL*Plus をリモート・データベースとともに使用する場合、PUP 表をリモート・データベース上にインストールできます。そのためには、サーバーで PUPBLD.SQL を直接実行するか、レジストリで LOCAL パラメータを設定し、リモート・データベースを指してから、PUPBLD.SQL を実行します。

PUP 表の説明は、『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の付録 E「PRODUCT_USER_PROFILE 表」を参照してください。

PUP 表は、ODBC 接続には使用されません。ODBC 接続の接続識別子は、*odbc:* または *oca:* から始まります。

オペレーティング・システム・パラメータのカスタマイズ

この章では、レジストリ中の SQLPATH パラメータを変更して SQL*Plus の構成をカスタマイズする方法を説明します。

次の項目について説明します。

- [レジストリの使用方法](#)
- [SQLPLUS 環境変数](#)

警告： Microsoft は、レジストリの変更を推奨していません。レジストリを編集すると、オペレーティング・システムとソフトウェアのインストールに影響する可能性があります。経験豊富なユーザーのみがレジストリを編集するようにしてください。オラクル社は、Windows レジストリの編集によって発生した問題に責任を負いません。

レジストリの使用方法

Windows 用の Oracle 製品をインストールすると、Oracle Universal Installer によって、Windows レジストリに関連するパラメータが追加されます。

次の表は、Windows の各プラットフォームで使用できるレジストリ・エディタのバージョン（REGEDT32.EXE または REGEDIT.EXE）を示したものです。

Windows プラットフォーム	REGEDT32.EXE	REGEDIT.EXE
Windows 2000	◎	◎
Windows NT 4.0	◎	◎
Windows 98	×	◎
Windows 95	×	◎

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE サブキーには、Oracle パラメータが含まれています。

Oracle パラメータを定義するレジストリ・エントリの編集方法は、レジストリ・エディタのヘルプ・システムを参照してください。

Oracle パラメータの値を変更したり、レジストリにパラメータを追加した場合は、そのパラメータを使用しているプロシージャを SQL*Plus が実行するたびに、その変更内容が有効になります。

SQLPATH パラメータの説明

SQLPATH パラメータは SQL スクリプトの位置を指定します。このパラメータは、SQLPATH レジストリ・エントリで定義されます。SQL*Plus は現在のディレクトリで SQL スクリプトを検索し、次に SQLPATH パラメータで指定されたディレクトリを検索します。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE¥HOME0 レジストリ・サブキーには、SQLPATH レジストリ・エントリが含まれます。SQLPATH は、¥ORACLE¥ORA81¥DBS のデフォルト値で作成されます。任意のドライブの任意のディレクトリを SQLPATH の有効値として指定できます。

SQLPATH パラメータを設定するときは、セミコロン (;) でディレクトリを連結できます。次に、例を示します。

C:¥ORACLE¥ORA81¥DATABASE;C:¥ORACLE¥ORA81¥DBS

SQLPATH レジストリ・エントリの編集方法は、レジストリ・エディタのヘルプ・システムを参照してください。

SQLPLUS 環境変数

SQLPLUS 環境変数は、SQL*Plus のメッセージ・ファイルの位置を指定します。この環境変数はインストール時に設定され、デフォルト値は次のとおりです。

`%ORACLE_HOME%/SQLPLUS/MSG`

この環境変数の変更や設定は行わないでください。

索引

記号

\$ コマンド, 4-4
@@ コマンド, 4-3
@ コマンド, 4-3

A

AFIEDT.BUF, 3-9
ANSI エスケープ・シーケンス, 警告, 4-3

C

CD-ROM の内容, v, 2-2

D

DEMOBLD.SQL ファイル, 2-4
DEMODROP.SQL ファイル, 2-4

G

GLOGIN.SQL ファイル, 4-3
GUI
 Windows の「文字コード表」ユーティリティ,
 3-13
 起動, 3-4
 メニュー, 3-7

H

HOME_NAME の定義, vii
HOST コマンド, 4-4

L

LOCAL パラメータ, 4-5
LOGIN.SQL ファイル, 4-3

M

MS-DOS, SQL*Plus からのアクセス, 4-4

O

Optimal Flexible Architecture (OFA), vii
ORACLE_BASE の定義, vii
ORACLE_HOME の定義, vii
ORA エラー・メッセージ, 4-2

P

PL/SQL, SQL*Plus に対する関係, 1-2
PRODUCT_USER_PROFILE 表, 4-4
PUPBLD.SQL ファイル, 4-4

R

REGEDIT.EXE, A-2
REGEDT32.EXE, A-2

S

SET NEWPAGE コマンド, 4-4
SET TIMING コマンド, 4-2
SPOOL OUT 句, サポートされていない, 4-3
SPOOL コマンド, 4-3
SQL*Plus
 GUI からの環境設定, 3-9

LOGIN と GLOGIN を使用した設定, 4-3
アプリケーション・ウィンドウ, 3-5
インストール, 2-2
オンライン・ヘルプのインストール, 2-2
概要, 1-2
起動のショートカット, 4-2
基本概念, 1-2
コマンドの定義, 1-2
コマンドライン・インタフェース, 3-2
コマンドラインからの環境設定, 4-3
サポートされている Windows のバージョン, iii
終了, 3-13
前提条件, iv
メニュー, 3-7
SQLPATH パラメータ, 4-3, A-2
SQLPLUS 環境変数, A-3
START コマンド, 4-3

T

TIMING コマンド, 4-2

W

Windows オペレーティング・システム
サポートされているバージョン, iii

あ

アクセス, サンプル表, 2-4
「値」画面領域, 3-10
「値」領域, 3-10

い

インストール
SQL*Plus オンライン・ヘルプ, 2-2

え

エディタ
起動, 3-9
定義, 3-9
エラー・メッセージ, 解釈, 4-2

お

「オプション設定」領域, 3-10
「オプション」メニュー, 3-9
オペレーティング・システム, SQL*Plus のサポート,
iii
オンライン・ヘルプ
SQL*Plus 用に取得, v, 2-2
インストール, 2-2
インストールの前提条件, 2-2
オンライン・ヘルプのアクセス, 2-3

か

概要, 1-2
格納, 問合せ結果のファイルへ, 4-3
「画面バッファ」領域, 3-10
環境
SQL*Plus の設定, 3-9, 4-3
SQLPLUS 変数, A-3
コマンド, 3-9

き

規則, Windows 引数, 3-3
起動
SQL*Plus, 3-2
SQL*Plus Windows GUI, 3-4
基本概念, 1-2

く

グラフィカル・ユーザー・インタフェース
「GUI」を参照
クリア, 画面, 3-8

け

検索, テキスト, 3-9
「検索」メニュー, 3-9

こ

コードの表記規則, このドキュメントで使用, vi
コピー, テキストの, 3-6, 3-8
コマンド・キー, SQL*Plus Windows GUI, 3-6
コマンドの定義, 1-2

コマンド・ファイル

開く, 3-7

保存, 3-7

コマンドライン・インタフェース, 3-2

Windows の「文字コード表」ユーティリティ, 3-4

字体とサイズの変更, 3-3

特殊文字, 3-4

ユーロ記号, 3-4

さ

サブキー, レジストリ, A-2

サンプル表, 2-4

し

システム変数の設定, 3-9

システム要件, 2-2

「実行」メニューのコマンド

SQL および PL/SQL のリストと実行, 3-8

終了, SQL*Plus, 3-13

終了, SQL*Plus GUI, 3-8

ショートカット, SQL*Plus 起動, 4-2

す

「スタート」メニューでの位置, SQL*Plus, 3-4

スプール・ファイル, 4-3

「スプール」メニューのコマンド, 3-7

せ

セキュリティ

PRODUCT_USER_PROFILE 表, 4-4

接続識別子, 3-4

接続文字列

「接続識別子」を参照

設定, LOGIN と GLOGIN の使用方法, 4-3

前提条件

SQL*Plus, iv

オンライン・ヘルプのインストール, 2-2

た

対象読者, SQL*Plus, iv

て

テキスト・エディタ

起動, 3-9

定義, 3-9

デモ表, 2-4

と

問合せ

結果の定義, 1-3

定義, 1-2

ドキュメント

表記規則, このドキュメントで使用, vi

特殊文字

使用, 3-4, 3-13

フォントの選択, 3-4

ユーロ記号, 3-4, 3-13

取消し, 実行中の操作, 3-8

ね

ネット・サービス名

「接続識別子」を参照

は

バッファ

SQL, 1-3, 3-7

画面, 1-3

画面領域, 3-10

クリア, 画面, 3-8

パラメータ

SQLPATH, 4-3, A-2

貼付け, テキスト, 3-8

ひ

表

定義, 1-2

デモ, 2-4

ふ

「ファイル」メニュー, 3-7

フォント

CLI での字体とサイズの変更, 3-3

複数の Oracle ホーム
定義, vii
ブロックの定義, 1-2

へ

ヘルプ
インストール, 2-2
インストールの前提条件, 2-2
オンライン・ヘルプのアクセス, 2-3
「ヘルプ」メニュー, 3-11
「編集」メニュー, 3-8

ほ

ホスト文字列, 3-4
保存, コマンド・ファイル, 3-7

ま

マウスによるコマンドのコピー, 3-6

め

メニュー
GUI, 3-7

も

「文字コード表」Windows ユーティリティ
フォントの選択, 3-4, 3-13

ゆ

ユーロ記号
GUI, 3-13
コマンドライン・インタフェース, 3-4

れ

レジストリ
SQLPATH エントリ, 4-3, A-2
エディタ, A-2, A-3
レポートの定義, 1-3

ろ

「ログオン」ダイアログ, 3-4